

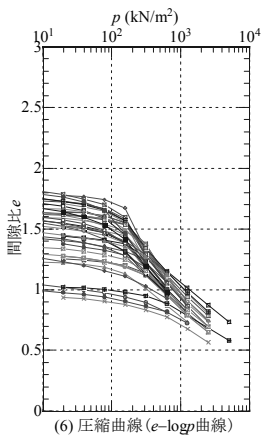
正 誤 表

頁	段	行、図・表番等	誤	正
口絵7		口絵7-2 図中	六甲 IS	六甲南
口絵9		口絵9 図中	吉川	古川
18	右	下から1行目	盆地」 <sup>㉒</sup>	盆地」
20	左	上から10行目	が行われた <sup>㉓</sup> 。	が行われた。
20	左	上から12行目	が付けられた <sup>㉔</sup> 。	が付けられた。
22	左	下から3行目	中州	中洲
22		図2.3-1 図中	吉川	古川
24	右	上から4行目	国際空	国際空港
25	左	上から11行目	168 期	168 基
32	左	上から10行目	砂州	砂洲
33	右	下から16行目	本断面面	本断面
37	左	上から16行目	土質分布見ると	土質分布を見ると
37	左	下から14行目	大阪地域では、 <u>西大阪地域では、</u>	西大阪地域では、
37	左	下から6行目	なるが。 <u>　</u>	なるが、
40		図3.2-6	海退期	最終氷河最寒冷期
41	右	上から3行目	吉川	古川
42	右	上から3行目	吉川	古川
47		図3.2-14		(a) Ma9層の層厚分布 (b) Ma9層の上面標高分布 (c) Ma10層の層厚分布 (d) Ma10層の上面標高分布
48		図3.2-15		(a) Ma6層の上面標高分布 (b) Ma7層の上面標高分布 (c) Ma8層の上面標高分布 (d) (裏面参照)
50	右	上から6行目	書く	各
51	左	上から10行目	変位しているの <u>認められる。</u>	変位していることが認められる。
55	左	上から11行目	時期	次期
56	右	下から2行目	意準	基準
126	右	上から2行目	基礎情報 <sup>㉕㉖</sup>	基礎情報 <sup>㉗㉘</sup>
126	右	上から5行目	差が見ら、	差が見られず、
126	右	上から7行目	文献10)	文献11)
126	右	上から19行目	求められた。	求められた(図5.2.1-7)。
126	右	下から7行目	いる <sup>㉙</sup> 。	いる <sup>㉚</sup> 。
129		図5.2.1-7	密度構造 <sup>㉛</sup>	密度構造 <sup>㉜</sup>
138	右	上から11行目	にある海成粘土 Ma-1 の	にある粘土の
140		図5.3.3-3	の一	の一例
183	左	上から5行目	厚いところ1,000～	厚いところで1,000～
183	左	上から16行目	大きな <u>周期強震動</u>	大きな長周期地震動
184	左	下から8行目	宇佐美ら <sup>㉝</sup> が	宇佐美ら <sup>㉞</sup> が
185	左	上から13行目	被害棟数 <sup>㉟</sup> を	被害棟数 <sup>㊱</sup> を
186	左	上から3行目	同様である <sup>㊲</sup> 。	同様である <sup>㊳</sup> 。

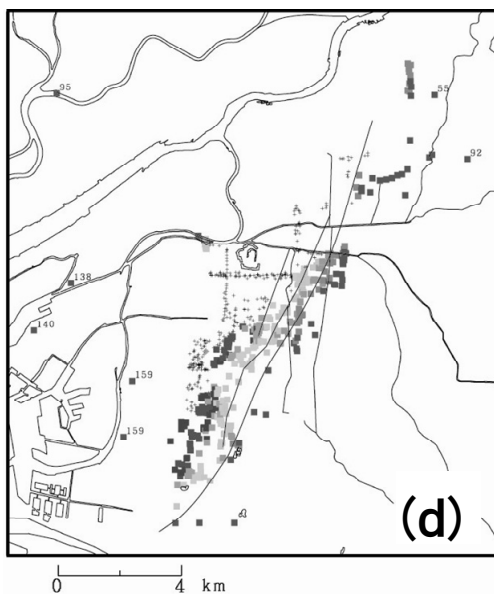
正 誤 表

頁	段	行、図・表番等	誤	正
191	右	参考文献 10)	(1994) : 全国地形・地盤分類メッシュマップを利用した地盤の平均S波速度分布の推定 (2005)	(2005) : 日本全国地形・地盤分類メッシュマップを利用した地盤の平均S波速度分布の推定
193	左	下から2行目	基盤岩震度	基盤岩深度
194	右	下から2行目	大阪府葦毒構造物	大阪府土木構造物
214	左	上から8行目	懐石に基づく	解析に基づく
214	左	上から10行目	海溝型地震動	海溝型地震による地震動
218	左	上から11行目	次元有効応力解析法	次元有効応力解析
218	左	上から14行目	地振動	地震動
		7.4.2項	海洋型地震	海溝型地震
		7.4.2項	内陸性直下型地震	内陸直下型地震
220	左	下から2行目	強振動	強震動
297	右	上から14行目	屈進長	掘進長
305		図 2.2-5(a)	中央区法円坂	(削除) OD-6の標高値: 1.6mに修正

※ 添付のCDには、誤字等の一部を修正した原稿を収録しています。  
この正誤表には、さらに未修正分をまとめています。



資料 12 頁 資料図 22 [新大阪]沖積粘土 (Ma13)の土質特性の深度分布の図(6)



p48 図 3.2-15 (d) Ma9 層の上面標高分布